

## 「発達障がい教育オンラインセミナー」を終えて

令和5年2月20日(月)

1月27日(金)にWeb会議サービス(Zoom)を活用し、発達障がいオンラインセミナーを開催しました。当日は、「生徒が進学後や卒業後に自立した生活を送るために必要な力って何？」をテーマに3名の講師の方からの話題提供と交流型オンラインシンポジウムを行いました。

全道各地から高等学校の教職員を中心に71名の参加がありました。

本資料は、本セミナーで話された内容等を生徒の卒業後の自立に向け参考にしていただくために作成したものです。

○教師にとって障がい理解を基にした指導方法の工夫や、合理的配慮とその考え方に対する理解が学校教育の土台となる

○生徒がうまく学ぶことができている教科の取組や工夫を教員間で共有し、自分が担当する授業で実践することが大切

北海道中標津農業高等学校  
校長 渡辺晃史氏

○大学生活は、親からの自立等に係る生活面への対応、高等学校までとは違い、自ら履修の計画を立てるなどの学修面への対応、学内やバイト先等に係る人間関係などで様々な困難が生じた際に相談できる学内の相談窓口を知ることが大切

中部大学現代教育学部現代教育学科  
准教授 立田祐子氏

## テーマ

## 生徒が進学後や卒業後に自立した生活を送るために必要な力って何？

○学校外の社会について知る・体感する機会は、卒業後に自身が頼る方法や場所を知る機会となる

○高等学校は、積み残されてきた課題に向き合う最後のチャンスであるため、関係機関や身近な福祉と一緒に取り組むことが大切

さっぽろ若者サポートステーション  
総括コーディネーター  
山名徹氏

## 交流型オンラインシンポジウムの話題

## ★相談のハードルを下げる

大学や就職の場において、援助要求ができず退学や離職に至ってしまうケースが見られるため、日頃から相談する経験をさせることや、相談できる人や場所を見つける

## ★自己理解を深める

自身の苦手なことを把握し、得意なことや力を発揮できる環境等に気付く



## 発達障がい教育オンラインセミナーに参加して(参加者から)

- ・生徒が一人で成し遂げる経験や、先生や友達から認められる経験を積み重ねていく中で、自己肯定感を高めながら、自身の得意・不得意や困難さの対応方法等について、生徒自身が少しずつ気付いていけるよう授業の取組や相談を工夫していきたいと思いました。
- ・生徒が自立した社会生活を送るために、大学の学生相談室や地域若者サポートステーション等の外部機関と連携しながら、適切な進路指導を進めていくことの大切さを改めて確認できたので、地域の関係機関について調べて活用していきたいと思いました。

特センの情報はこちら



☆自閉症・情緒障がい教育、発達障がい教育に関する資料はこちらから  
[http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?page\\_id=499](http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=499)



発行:北海道立特別支援教育センター(〒064-0944札幌市中央区円山西町2丁目1-1)